

# 令和4年度 事業報告

## 1 法人の概要

### (1) 建学の精神

「産学一體」の理念の基、社会に貢献しようとする強い使命感と豊かな人間性を備えた人材の育成

### (2) 教育目標

#### 1 人間力の育成

- (1) 強健な身体と健全な精神の上に豊かな情操を兼ね備え、真に勤労を愛する人材を育成する。
- (2) 明朗で誠実な心を育て、協調性に富んだ責任感の強い人材を育成する。
- (3) 正しい人生観、世界観を確立できるようにし、社会への奉仕を厭わない人材を育成する。
- (4) コミュニケーション能力を向上させ、世界に通用する人材を育成する。

#### 2 考える力の育成

- (1) 不撓不屈の精神で、創意工夫し課題解決できる人材を育成する。
- (2) 新しいことに積極的に挑戦できる進取の精神を持った人材を育成する。
- (3) 自ら進んで考え、行動できる創造力豊かな人材を育成する。

### (3) 沿革

昭和 16 年 3 月	財団法人 相川学園設立認可 静清工業学校機械科設置認可 理事長 相川繁吉氏、校長 諏訪広吉氏就任
16 年 5 月	開校式（静岡市、柚木）
18 年 4 月	校舎第一期工事落成
20 年 1 月	校長 柴田栄一氏就任
20 年 4 月	理事長 神戸 陽氏就任
22 年 4 月	新学制により静清中学校設置許可
23 年 3 月	校長 相葉 繁氏就任 学制改革により新制高等学校 「静清工業高等学校 全日制 工業科」設置 理事長 相川 繁吉氏就任
25 年 4 月	私立学校法により学校法人許可
25 年 10 月	創立 10 周年記念式挙行
27 年 4 月	電気通信科設置
28 年 4 月	校長 中村満雄氏就任
29 年 10 月	理事長 相川繁吉氏産業教育功労者として県より表彰を受ける
32 年 4 月	校長 臼田 行夫氏就任

33年11月	理事長 相川繁吉氏産業功労者として県より表彰を受ける
34年4月	理事長 相川繁吉氏藍綬褒章を受ける
36年4月	定時制機械科設置認可
37年11月	創立20周年記念式挙行
43年4月	理事長 相川繁吉氏勲三等瑞宝章を受ける
44年4月	校長 清水明氏就任
46年3月	電気科設置認可
55年4月	第3種電気主任技術者免状資格有 (昭和54年3月以降電気科卒業者)
56年4月	校長 市川高明氏就任
60年7月	第67回全国高等学校野球選手権静岡大会準優勝
61年8月	定時制機械科廃止認可
3年11月	創立50周年記念式挙行
4年7月	第74回全国高等学校野球選手権静岡大会準優勝
4年8月	理事長 相川叔彦氏就任
6年6月	創立者 相川繁吉胸像除幕式
15年4月	校長 池田靖氏就任
17年7月	第87回全国高等学校野球選手権静岡大会優勝
17年8月	野球部甲子園初出場
17年10月	第60回国民体育大会「晴れの国おかやま国体」野球部出場
18年4月	校長 増田健吉氏就任
20年4月	校長 酒澤政明氏就任
21年4月	理事長 相川雅紀氏就任
21年7月	普通科設置認可
22年4月	理事長 清水政文氏就任 普通科設置に伴い校名を「静清高等学校」に変更
23年3月	野球部甲子園選抜大会初出場
10月	理事長・校長 酒澤 政明氏 就任
28年11月	第69回全日本バレーボール高等学校選手権 県大会優勝
29年1月	第69回全日本バレーボール高等学校選手権大会 (春高バレー) 初出場
29年11月	第70回全日本バレーボール高等学校選手権 県大会優勝
30年1月	第70回全日本バレーボール高等学校選手権大会 (春高バレー) 出場
30年4月	文理探究科・工学探究科へ学科編成
30年11月	第71回全日本バレーボール高等学校選手権 県大会優勝
31年1月	第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会 (春高バレー) 出場
令和2年5月	理事長 濁澤次美氏 就任

令和3年5月16日 第80回創立記念日 令和4年4月1日 校長 小関 直樹氏 就任 共学化に伴い、工学探究科を分類（Ⅰ類は男女、Ⅱ類は男子のみ）
--

(4) 生徒数の状況（令和5年5月1日現在）

学校名	科名	学則定員	現員数
静岡高等学校	文理探究科	120人	56人
	工学探究科	600人	577人

(5) 理事・監事の概要（令和4年5月1日現在）定員数理事7名・監事2名

区分	氏名	常勤・非常勤の別	適用
理事長	濁澤 次美	常 勤	平成21年10月1日就任 令和2年5月29日理事長就任
常務理事	小関 直樹	常 勤	令和4年4月1日校長職就任
理事	兒島 良孝	非常勤	平成29年12月11日就任
〃	小島 登	非常勤	平成29年12月11日就任
〃	酒井田 努	非常勤	令和4年5月27日就任
〃	長坂 博文	常 勤	令和2年5月29日就任
監事	山田 知広	非常勤	平成30年5月13日就任
〃	木内 和彦	非常勤	平成22年5月13日就任

(6) 評議員の概要（令和4年5月1日現在）定員数15名

氏名	就任年月	主な現職等
濁澤 次美	平成21年10月	理事長
小関 直樹	令和4年5月	校長
小島 登	平成29年12月	会社役員
兒島 良孝	平成29年12月	司法書士
濁澤 光宏	平成30年5月	会社役員
酒井田 努	令和4年5月	弁護士
酒澤 政明	平成18年5月	相談役
長坂 博文	令和2年5月	事務局長
藪崎 雄大	令和2年5月	教頭
鈴木 健一	令和4年5月	教頭
山木 繁男	平成21年10月	会社員
大竹 茂樹	平成21年4月	会社役員
小林 真	平成30年5月	会社員
萩原 信介	令和4年5月	会社役員
油井 和行	令和4年5月	市議会議員
原田はるみ	平成29年5月	会社員

(7) 令和4年度 法人理事会・評議員会開催結果

第1回理事会（令和4年5月26日9:00~9:20）

- ・評議員改選期に伴う評議員の推薦及び選任
- ・監事候補者の選出
- ・理事の選任

(11:00～11:50)

- ・令和3年度教育および財務に関する事業報告
- ・令和2年度決算書報告、及び監事による監査報告
- ・任期満了に伴う役員等の改選
- ・給与規程一部改正（案）について

第2回理事会（令和4年12月21日11:05～11:45）

- ・令和5年度教育事業（案）について
- ・教科課程一部改正（案）について
- ・本館新築進捗状況報告
- ・電気科実習棟外壁改修工事（案）について

第3回理事会（令和5年3月10日10:45～11:50）

- ・学則の一部改正（案）について
- ・本館新築進捗状況について
- ・令和4年度第1回補正予算（案）
- ・令和5年度事業計画（案）について
- ・令和5年度当初予算書（案）について
- ・令和6年度校納金改正（案）について

第1回評議員会（令和4年5月26日9:30～10:50）

第2回評議員会（令和4年12月21日10:00～11:00）

第3回評議員会（令和5年3月10日9:30～10:35）

(8) 教職員の概要（令和5年5月1日現在）

	区 分	人 数
教 員	教諭・常勤講師	45人
	非常勤講師	22人
	非常勤実習助手	5人
職 員	常 勤	8人
	非常勤	3人

## (9) 設置学科及びコースの教育方針

### ア 文理探究科

普通科志望の中学生の受入や大学進学を希望する生徒の進路をより確実にするため、生徒の希望を叶えるべく平成 21 年度に普通科を設置した。さらに、現代社会で求められている「生きる力」や「コミュニケーション能力」を育む教育にシフトすべく平成 30 年度、「普通科」を改変し、静岡県で初めての「文理探究科」を設置した。

生徒の資質向上と多様な希望に応えるべく、1 年次で基礎学習を定着させ、2 年次から志望に応じた多様な選択カリキュラムを実施している。

令和 4 年度からスポーツ系コースを工学探究科Ⅱ類へ置き、本科をより大学進学を希望する生徒に絞った学科とした。少人数の学習集団の利を生かした新規導入のチューター制度による個別指導の充実、外国人講師による少人数での英会話レッスン等を内容とする「アカデミックセミナー」の実施など、単なる受験指導に終始することなく生徒の多様な興味関心に応え、未来への視野拡大を目指す教育を志している。

### イ 工学探究科

社会の要望に応え、理論と実践双方の教育を目指し、卒業後直ちに実務に役立つ技術、ならびに将来中堅技術者として必要な応用力を身につけさせる。このような従来からの基本方針に基づきつつ、より生徒の希望を叶えるべく、それまでの学科名機械科、電気科を変更して、平成 30 年の「工学探究科」としてコース制（メカトロニクス情報工学・機械システム工学・電気システム工学）を取り入れた。

令和 3 年度から、中学生の多様な要望に応えるため、2 年次にコース選択ができる、「くくり募集」として募集をし、1 年次に基礎的な工学の科目を体験し、興味関心の高いコースを選択できるシステムとした。

主に実習や実技を通して、工業の学習を一步前進した「工学」として捉える学びを重視している。

令和 4 年度入学生から、選択コースについて見直しを図り、男子と女子を募集するⅠ類に「総合情報コース」「スポーツ科学コース」を、男子のみを募集するⅡ類に「機械コース」「電気コース」「ロボットコース」「就業実践コース」を置いた類型とした。1 年次での学習を踏まえた上で、2 年次からのⅠ類の 2 つのコースおよびⅡ類の 4 つのコースを選択することができる。専門学科のメリットを生かした大学入試等に対応できる学習プログラムも整えた。また、就職希望者の多様なニーズにも対応し、現在、就職率 100%を維持できている。

## (10) 設置学科及びコースのカリキュラム

R 4 「カリキュラムガイド」に記載

## 2 令和4年度教育事業計画の概要

### (1) 新館の教育環境整備

本館の耐震性問題（耐震強度の不足）の解決及び共学化を見据えた校舎の建替えが成った。新館棟における教育充実に向けた施設充実化を継続的に検証し、有効活用を模索する。

### (2) 授業を中心とした教育の質の向上

・ICT活用 ・AL ・実習活動 ・校外学習 などをツールとした新課程の趣旨を踏まえた主体的体験的な学習の充実  
→生徒授業アンケートの満足度を数値目標化

### (3) 生徒指導の充実化と校内環境の安定化（生徒指導件数減・いじめ案件の撲滅・授業環境の改善）

・個人面接週間の複数化  
・ボランティア活動などの社会貢献活動への積極的参加  
・部活動の充実化

### (4) 教職員の協力信頼関係の再構築による職場環境の改善、コンプライアンス遵守の意識向上

・導入可能な業務については数値目標の設定を検討する。  
・管理職面談の実施  
・コンプライアンス研修の実施  
・その他

### (5) 広報募集の充実と拡大

### (6) 組織的計画的な大学進学指導の充実と将来ビジョンに基づいた IT 教育の推進

### (7) 人事適正確保と配置の計画的対応

来年度のみならず教育課程の進行に伴う教科科目の事業時数、本校の教育目標実現のための必要性から適正な人材の確保を目指す。数年間かけての常勤職員率の向上も視野に入れる。

・今年度前半での必要人数算出と人事計画の作成  
・私学協会適性検査後の速やかや募集活動  
・大学、私立県立高校、各教育委員会等との人材情報の交換が可能となるネットワークづくり

## 3 重点教育事業計画の目標実現へ向けた令和4年度の取り組み等

### (1) ICT整備活用計画

ア iPad活用…新入生全員がiPadの購入をした。授業及び家庭学習に有効活用を検討しつつ活用をした。リテラシーの課題も。

イ 授業支援アプリケーション（MetaMoji Classroom）の導入…iPad上での解答状況や進捗のモニタリングが可能になり、個々の学

習理解度等がその場で把握できるようになった。さらなる活用を検討していく。

ウ デジタル版指導用教材の利用…教材を単焦点プロジェクターにてホワイトボードに投影が可能となった。利用率向上を推進する。

エ 職員パソコンの更新（リース）が完了した。

オ 校務支援システムの導入…スクノートの導入。学籍管理・入試管理・成績管理・連絡機能・アンケート回収機能等に活用し始めた。

## （２）新学習指導要領対応の新教育課程の学年進行実施

ア 令和４年度１年生から学年進行で実施。

- ・新科目と配当単位数
- ・週 28 単位時間の有効活用
- ・選択科目の拡充
- ・文理探究科を中心とした大学入試対応をポイントに履修順、必要単位数に留意して編成した。

\* 大学入試科目や重点、大学の動向を見据えつつ、柔軟に改定する。

## （３）新学習指導要領に基づく「観点別評価」の実施

学習指導要領に定める目標に準拠した評価、資質・能力の三つの柱に対応した三観点での評価が求められる。「成績表」「調査書」「指導要録」への明記と説明責任に慎重な対応が必要。

△新評価制度の理解定着に苦労した。教務課の指導で調整を進めた。

## （４）教職員研修の充実（教科指導力向上、ICT活用力向上等）

ア 県総合教育センター主催研修の活用（19人）

イ 私学協会主催研修の活用（5人）

ウ 先進校、各教育機関、教育産業等の視察

エ 校内研修会の充実（教務内規に定める研究授業等）（11人）

オ 教職員人事評価制度の導入検討（当初・年度末の個人面談実施）

△進んだものもあるが、教職員育成長期計画ができていないため、場当たりの・個人的意欲に負うレベルにとどまっている。

## （５）募集活動の拡充

ア スクールバス事業の拡大（新規２コースの５コース実施）

「静清高等学校通学等安全支援の会」とともに生徒の通学の安全性と利便性を高めるとともに、PRと募集拡大を目的とした事業実施を行った。

年度途中に変更を求められたが、本校としての方針を明確にできた。

○利用率は好調であった。マナー問題あり。

イ 広報活動拡大と充実

① 学校説明会の充実

「学校説明会（８月２０日）」焼津文化会館大ホールで実施した。ステージ

発表を充実させることができたため、参加者アンケートはすこぶる好評であった。

○8月学校説明会（R3 400人→R4 700人）

○10月第1回体験入学（R3 400人：R4 800人）

② 中学校等訪問（R4実績）

・校長訪問（年3回）○

・教頭訪問（掛川以西～磐周エリア：年2回）○

・渉外訪問（志榛・清静エリア：各年3～4回）○

・校長・教頭訪問 学習塾（50教室）●多忙につきR4は減となった

③ 掲示物、出版物等に加えて、R4はテレビCM実施（静岡第一TV）

○7月～12月の間放映した。

ウ その他（R6選抜への改善）

○工学I類のコースの整理と特徴化 「ITエキスパートコース」

○工学I類第一希望者へのII類併願設定

（6）進学指導の充実について（進学実績の向上に向けて）

ア 文理探究科のアカデミックセミナー

静清ゼミによる資格取得支援の一層の充実に加えて、文理探究科では、7時限目を週3回ほど利用した「アカデミックセミナー」を実施した。

ALT活用（\*下記のねらい）によるオールイングリッシュ講座で1年次は基礎英語に親しませる内容とし生徒の苦手意識を払拭するための学習を行った。2年次以降は他教科を含め教育課程を補完する進学準備に有効活用する。

△ALTの活用

非常勤外国人講師による指導を通じて、英検やGTECなどの資格試験への挑戦をする生徒を増やすとともに、英語に親しみ積極的にコミュニケーションをする姿勢を育成する。共通テストの得点割合でのリスニングの高まり（リーディング・リスニング＝1対1）への早期対応をする。

イ チューター制の試行

新1年文理探究科で試行をスタートさせる。担任とは別に3人程度の生徒の進路相談や学習アドバイスを行う「チューター」を当て、個別面談を充実させ、より身近で一人ひとりに寄り添った指導を実施した。

△指導職員不足が課題。

ウ「進路指導ストーリー」の策定と実施

3年間を見通した校外模擬試験や資格試験、個別面談などの予定と意義づけを明確にした指導計画を作成し、生徒、保護者と共有すべきだが、

●令和4年度は策定できず。

エ 年間指導計画（シラバス）と使用教材の見直し



副教材やデジタル教材等の精選と活用について大学入試を視点に見直し、習熟度授業等を前提に研究すべきだが、

●令和4年度は実施できず。

#### オ 進路行事の研究と検討及び導入

大学訪問、保護者説明会、長期休業補習、英検、模擬試験、勉強合宿、土曜講座 等々について必要性和有効性を検討する予定であったが、

●令和4年度は実施できず。

○文理探究科「サマーセミナー」「チューター制」

○共通テスト後「出願検討会」は新規実施できた。

#### カ 教科指導力向上

人事作業を通じた各教科の人員の適正配置に配慮しつつ、各種研修等を通して魅力ある授業の研究と実践を進める。

●若手を中心に改善努力は見られるが全体としての改善は不十分である。

### 6 学科・コースの将来ビジョンの研究と実践事業の立ち上げ

文理探究科の特進化とともに、定員200人を抱え、本校の軸であり、核であり、特徴である「工学探究科の学び」についてのビジョン明確化と具体的対策の検討は今後の生き残りの要点であり、外部機関との連携を含めた研究と検討を行い、早期に教育実践として実施したい。

○「未来の教室」 IT教育（別冊パンフレット）実施

○ “ ” キャリア教育（ “ ” ）計画立案

### 7 生徒指導案件の減少と問題の早期発見と対応

#### （1）個別面接指導の拡充

年間複数回数の個別面談を通じて生徒の状況理解に努め、問題行動、いじめなどの早期発見とともに、卒業後の将来ビジョンを具体的、明確に持たせ、その実現のための高校生活における目標を具体的に意識させることにより、健全で落ち着いた学校生活となるようサポートを強化した。

○2者・3者面談：年間5回、成績不良各学期、態度不良者各学期実施

○「自己診断シート」「目標設定シート」活用

#### （2）スクールカウンセラー等の充実化

友人関係や学校生活上の精神的課題や悩みを持つ生徒、指導上の悩みを抱える教職員が相談できる環境整備を進めた。

○教育相談部の新設とSV等人員強化補充

### 8 諸規定の見直しと整理

○生徒指導規程、教務規程、進路指導規定、特待生制度等の本校の指導の柱である諸規定に見直しをかけ、適正な表現や修正を行った。

9 新入生募集結果（令和5年度入学実績）

新入生合計 246名

「文理探究科」（男女） 15名

「工学探究科」

I類（男女） 80名

II類（男） 151名

工学探究科計 246名

5 その他

- (1) 当該年度の重要な契約はない。新校舎の環境整備、教育事業の充実を図る。
- (2) 決算日後に生じた学校法人の状況に関する重要な事項はない。